

北海道札幌市の大樹さん

特別住民番719号

この度は、特別住民をいただき有り難うございます。
命名のエピソードと申しまして、月並みになりますが、大きいという字をつけたく、主人が考えて大きい樹、やはり男の子ならこれがいいのではという事で命名しました。



私事で恐縮ですが、大樹町には一度も行ってはいませんが、何故か縁があります。と言うのも、夫婦共に大樹町で生まれたミニバレーを上の子が5歳になった頃からやっております、その上の子もなんとミニバレー、ミニの、3月2日生まれ。しかも、大樹と命名したのも全くミニバレーをまだ知らなかった頃に命名し、今では何か不思議な縁と思っております。

本当に今では大樹と命名して、本当に良かったと思います。本人も運がどんどんついてきて、今現在、少年団のサッカーをやっております、お陰様で4年から入れる札幌選抜のサッカー教室にも参加させていただいております。大樹町も運動系が盛んな所と伺っております。そんな大樹町から大樹とつけてあげて、本当に良かったと思います。

これからも、大樹町に負けない様に頑張って体を鍛えて、健康な日々を過ごして行きたいと思います。大樹町の今後の発展と皆様のご健康をお祈り致します。そして、大樹町役場の皆様、今回の企画運営にかかわっていただいた皆様に感謝とお礼を申し上げます。有り難うございました。(父)

福島県いわき市の大樹さん

特別住民番720号

ぼくは、平成6年4月14日、午前5時20分に四人兄弟の末っ子として生まれました。母は、女の子を希望してました。男2人、女2人が夢で、母の兄弟も男女2人ずつの四人兄弟だったのです。でも、安産で、元気もよかったし、とっても喜んでいました。



母は、ぼくが朝に生まれたので、“日の光”で「晃」とつけたかったので(父には内緒ですが、何でも母の初恋の人の名前とか……)。

父は、“かじろ あきら”では、名字にも名前にもラ行がつくのでは言いづらいし、兄達が“直樹”“佑樹”と“樹”がついているのに、「どうして、ぼくだけ“樹”がつかないの？」と、尋ねられても困ると言うのです。それで、

まっすぐ、スクスクと伸びる(直樹)

葉を繁らせたりして木陰で休ませてあげたりと人を助ける(佑樹)

そして、大きくなるという意味を込めて「大樹」に決めました。

今でこそ、だんご三兄弟です。その通りで、二人の兄や姉に助けられて、どんどん成長しています。一度、言い出したら、テコでも動かないし、また恥ずかしがり屋で面と向かっては言えないけど、みんなに感謝しています。

「ありがとう。」

そして、これからも末永くよろしく

お願いいたします。」

千葉県茂原市の大樹さん

特別住民番724号

2000年の4月8日で、20歳になる大樹です。

僕は、横浜生まれの千葉育ち、今は家を出て北陸の金沢の地で大学生活を送っているのですが、両祖父母、両親達は、北海道で生まれた道産子達なのです。特に一昨年他界した父方の祖父は、大樹の町に縁がある人で、両親にはやはり北の国への思い入れがあったのだろうと理解しています。



枝葉をいっぱい広げた大きな樹の下は、誰もがほっと一息ついて、休める日陰ができるのです。

自分のことだけでなく、人のことも考えられる人間になってほしいと、まあ名前の由来

は、そのようなことらしいです。

食べ物が旨いこと、スキー・スノーボードの天国であること、自然がダイナミックなこと、北海道は父と母をはぐくんだ本当の故郷ですが、僕にとっても大好きな、大事な場所です。

大樹の町を5歳の時に旅行した、かすかな記憶をたぐり寄せ、この町を心のよりどころにしようと決めているのです。

タイちゃん、シマちゃん、島尻君と、呼び名はいろいろ変化しましたが、大樹と呼んでくれる両親に感謝して生きていくつもりです。いつか、再び、大樹の町へ行ってみたいことにします。

北海道旭川市の大樹さん

特別住民番728号

はじめまして、山口大樹です。

ぼくは昭和55年5月15日のたんじょう日です。

兄と姉の三人兄弟です。

兄は父親方のじいちゃんにつけてもらったそうです。

姉は母親方のばあちゃんに名前をつけてもらったそうです。

ぼくは3番目で男の子であればお父さんが名前をつけて女の子であればお母さんがつけるつもりで考えていたそうです。

大樹の名前はお父さんがつけて気持ちのやさしいすくすくとそだつ大きな木のように大きくなるように大樹とつけてくれました。

小さいころぼくはとなり近所のおばさんにたいきちゃんとよばれたのですが、大樹ちゃんではなく大樹・大樹とおしえてやりました。



北海道上磯町の大樹さん

特別住民番730号

上磯町に生まれて22年、大樹と言う名前でもって育って来ました。この名前の由来は、新聞を見ていたら、双子の兄弟の入学式の写真が出ていました。

二人目の子供なのでくじけず、強い大きな樹のようになってほしいと願い名付けました。それに北海道に大樹町と言う町があることを知っていたので身近な気持ちで名前を付けることにしました。時が去って、生まれて9ヶ月の寒い冬、親の不注意でストーブに手をつけてしまい、右の人差指と小指をやけどさせてしまいました。近くの病院に通院していたのですが、簡単な手当をしたために治るか、治らないかの状態で指の関節が曲ったようになり他の病院に行った所が手遅れと言われた時に大変ショックを受けました。どんなことでも治してやらなくてはと大きな病院で、1歳・3歳・5歳と3回の手術をしながら入院をくりかえして来ました。入学式までに、はしやエンピツを持つことが大変でした。エンピツを持って字を書く時はつらくて、何かをする度に目をつぶって涙をこらえていたこともありました。幼稚園の入学式の時は、どこからか大きな泣き声が聞こえると思ったら大樹だったのです。この時は、一つ上の兄ちゃんがいたから心強かったかも知りません。

こうしていられないときびしく育てたつもりなのですが、今までの事が甘かったのか、学校に入学してからは、弱い子供に育てて学校では、何も出来ない、言わない子と決めつけられて学校時代を過ごしました。色々といい経験をしたことを家族で頑張ってきたことが今はふり返り日々を送って行くことにしています。この町は、古い歴史と豊かな自然に囲まれております。現在3万6千人の人々が住んでいて、海岸の道路沿いには、町の花(むくげ)、町の木(くろまつ)が植樹されて、さわやかな気分になります。山々と海辺が近く、休日になると函館山に登ったり、地域での活動に参加をしています。人と人とのふれ合いに慣れる話せる目的で幼時代を一緒に行動して来ました。下の子は女の子、今は三人皆成人し、自立の道を歩んでいます。おおきも大工の道にと成長し、今に至りました。



北海道札幌市の大樹さん

特別住民番731号

聞いて下さい！

私の息子の「大樹」という名は20年前、夫と私が考えて作った名です。

夫は本当は「大」という名にしたかったのですが、「轟 大」だと姓の画数が多く、ひっくり返りそうだということになり、何か「大」の字を入れた良い名はないかと考えたあげく、「大樹」が候補にあがりました。けれど私はそんな名前はそれまで聞いたことがなく、友達が「大樹町」出身のせいもあり、町の名と同じ名前というのもどうかな？ などと考えましたが、タイキ タイキと口にすると、とても呼びやすく親しみがわいたので決めました。

本人も今もこの名前がとても気に入っています。ただ息子が小学生くらいまでは同じ名の人はいなかったのですが、最近わりと耳にするようになりましたね。でも私はいつも「うちの子が元祖大樹」と自負しております。

ちなみにこの募集の記事も私の友達(前述の大樹町出身)が送ってくれました。とってもうれしく思い応募させて頂きます。ありがとうございました。(母)



東京都大田区の大樹さん

特別住民番737号

とても夢のある企画を、ありがとうございます。

逆子でしかも小ぶりな、皆が心配する中、無事に元気に生まれた次男が、大樹のように、大きく、伸び伸びたくましく育つようと、主人と迷わず大樹(だいき)と名付けました。元気でやんちゃに育っています。

この先、この子にとって、何かの励みになってくれれば…と思い、応募します。子供たちがもう少し大きくなったら、皆で行きたいねと、主人と話しています。どうぞ、よろしくお願い致します。(父母)



北海道札幌市の大樹さん

特別住民番741号

主人が新聞広告を見つけました。

実はうちの2歳になる長男がまさしく“大樹”なのです。しかも、その名前の由来というの、大樹町の事を知ってつけました。

私も主人も北海道出身なのですが、転勤で千葉県に住んでいた時に大樹が産まれました。北海道を離れた事のない私達にとって夏休みに帰省する際、北海道の雄大さ、力強さ、そして透明感が住んでいる時より強く思いました。そして北海道にちなんだ名前をつけようと、色々考えました。

結婚してまもない頃、その当時主人の実家のあった釧路に行った帰りに地名は忘れてしまいましたが、一本の大きなはるにれの木が思い浮かびました。その力強さに感動したのを思い出しました。地面にしっかりと根をはり、力強く、たくましく、そしてやさしくのびのびと育てほしいとの願いを込めて「大樹」と名付けました。

今2歳でやんちゃ盛りで、泣き虫で甘えん坊の大樹ですが、名前に負けないように育ててもらいたいです。

以前から主人と大樹町に家族4人(長女4歳)で行きたいね、と話していたので、広告を見て応募させて頂きました。この機会に是非実現させたいです。(父母)



埼玉県行田市の大樹さん

特別住民番742号

私は、実は生まれて27年間、はっきりと詳しくは自分の名前の由来について聞いたことはなかった。今までに、ただ何気なく親が少し話してくれたことはあった。また小学校の時に母親に聞いたこともある。しかし、名前を付ける際の逸話など、何となく照れくさくて、面と向かって聞く体制が、私の方にできていなかった。そしてそのまま現在に至った。この機会に改めて自分の名前の由来について、詳しく聞いてみようと思家に戻った。



父親は快く受けてくれ、遠くを見るような目で、切々と話してくれた。

「お父さんはもともと木が好きなんだ。大地に根をしっかりとはり、大きな幹を空高く伸ばし、思いっきり枝を広げて、太陽からの恵みを体いっぱい受ける。そして、生物の中で最も長生きし、屋久杉のように何千年も生きることができる。そんな樹木の生命力に感銘を受けたんだ。だから自分の子どもの名前には“木”ではなく、もっと力強い“樹”をつけようと思ったんだ。茂樹(兄の名)もそういう意味から付けたし、もし女の子だったら“美樹”と名付けようと思ったんだよ。大きい立派な樹木のように元気に成長してほしいって、“大樹”としたんだ。名字(高原)にも合うし。」

やっぱり照れくさかったけど、とてもうれしかった。「“大樹”にはいっぱい読み方があるけど、その中で“たいじゅ”にしたのはどうして？」

「やはり意味合いに合うように、そのまま普通に“たいじゅ”にしたんだ。」

改めて聞いて、名前には両親のしっかりとした願いがあったことがよく伝わってきて、うれしいと同時にいい名前を付けてくれて感謝している。今になって考えると、もう少し早くしっかりと聞いておけばよかったな、と思った。しかし、この機会がなければきっとこの先も面と向かって尋ねることはなかっただろう。大樹町の企画にも感謝する。人に様々な恵みを与える「大樹」のように、これからも生活していきたい。最後に母親はこう付け加えた。

「あなたの名前は、当時の電機メーカーのコマーシャルと、生命保険会社のコマーシャルにもヒントがあったんだよ。」

「えっ？」

北海道札幌市の大樹さん

特別住民番745号

「どういう名前にしようか」、「初めての子だし、男の子らしくしたいね」、「転勤族とはいえ、十勝に生まれたんだ。少しはあやかりたいね」

当時、私(父)は山登りが好きだった。山の小径を歩き、疲れると大きな樹の幹に身体を預け、しばし休憩した。稜々とした尾根に出るのはまだ先だ。息を大きく吸い込みながら、豊かな緑に包まれる。

春。まだ若い、薄っぺらな黄緑色の葉。生命の息吹が、光を取り込む。

夏。大きく広がった木蔭に腰を下ろす。風が、疲れた身体に心地良い。

秋。実りの季節。これまで蓄えた滋養を、森の住民たちに分け与える。

冬。しんと積もる雪を受け止める優しさ。嵐さえ受け流す力強さ。

万象を受け入れ、喜びを他に分かち与える。雄々しく、かつ、優しく。

1999年9月3日、彼は8歳の誕生日を迎えた。親の私が言うにはどうかと思われるが、優しい子だ。友人たちにも恵まれている。人並み程度には賢く、力強い身体。決して物おじせず、活発だ。私が思うに、「大樹」という名の、私自身の思いの通り育ってきていると。もちろん、妻の母性愛に富んだ育児あってのことと感謝している。

「大樹」には、いろんな願いを込めて命名した。その願いがバランスを取りながら、かつ、大きく成長して初めて「皆が集う」人となる。これからもその名の通り、少しずつでいいから幹をたくましく、枝葉を広げ、やがて自然に人々が集まってくるような人望を得てほしい、と願っている。(父)

